

(証券コード : 6594)
<https://www.nidec.com>

ESG説明会



日本電産株式会社は2023年4月1日より
ニデック株式会社
に社名変更いたします。

日本電産株式会社



2023年2月27日

－ 注意事項 －

本プレゼンテーション及び引き続き行われる質疑応答の際の回答には、将来に関する見通し、期待、判断、計画あるいは戦略が含まれています。この将来予測に基づく記載や発言は、為替変動、製品に対する需要変動、各種モータの開発・生産能力、関係会社の業績及びその他のリスクや不確定要素を含みます。本プレゼンテーション及び引き続き行われる質疑応答の際の回答に含まれる全ての将来的予測に基づく記載や発言は、プレゼンテーションの日に入手可能な情報に基づいており、私達は、法令に定めのある場合を除き、このような将来予測に基づく記載や発言を更新する義務を負いません。また、この記載や発言は、将来の実績を保証するものではなく、実際の結果が、私達の現在の期待とは、実体的に異なる場合があります。このような違いには、多数の要素が原因となり得ます。これらの要素やリスクについては当社の継続開示及び適時開示等の記載をご覧ください。

1. ガバナンス体制について

代表取締役社長執行役員(COO) 小部 博志

2. カーボンニュートラルに向けた進捗

常務執行役員(CFO) 佐村 彰宣
環境統括部長 石橋 健作

3. サステナビリティ視点から見たNidecの車載事業

常務執行役員 早船 一弥

4. 質疑応答

1.ガバナンス体制について

代表取締役社長執行役員(COO) 小部 博志

中期戦略目標 Vision2025にESG目標を組み込み、ESG経営を推進

2015年度～2020年度

Vision2020

- 連結売上高目標 2兆円
(新規M&A約5,000億円を含む)
- 内、車載売上高目標
7千億円～1兆円
- 連結営業利益率目標 15%以上
- ROE(株主資本利益率)
18%以上
(株主資本比率60%を前提目標)
- グローバル5極経営管理体制の確立

2021年度～2022年度

Vision2020 から25へ

- 連結売上高目標 **2兆円**
- 生産性向上
従業員一人当たりの売上高と営業利益
を**3割増**
- ROIC(投下資本利益率)
10%以上

2023年度～2025年度

Vision2025

- 連結売上高目標 **4兆円**
- 生産性向上
従業員一人当たりの売上高と営業利益
を**倍増**
- ROIC(投下資本利益率)
15%以上

● ESGで評価される企業に！

- ① 世界初、世界No.1技術の積み上げによる社会ニーズの解決
- ② カーボンニュートラルを中心としたESG経営の推進
- ③ One Nidecとしての組織、ガバナンス強化

ESGマテリアリティを特定し、取り組むべきテーマのKPIを策定

【狙い】 当社のESGマテリアリティを「環境、製品、人材、サプライチェーン、ガバナンス」の5つのカテゴリ（計15テーマ）に特定。これらの対策を、中長期経営戦略目標に組み入れることで当社ビジネスの持続可能性を高める。

カテゴリー	マテリアリティ	テーマ（取り組み課題）	Phase*
環境	持続可能な地球環境の実現	1. 脱炭素社会の実現	Phase 1
		2. 廃棄物・有害廃棄物の管理	Phase 2
		3. 水リスクへの対応	Phase 2
		4. 製品の安全性と品質の追求	Phase 2
製品	社会変化に適応した製品・サービスの提供	5. 技術環境・産業構造の変化への対応	Phase 2
		6. 知的財産の保護・活用	Phase 2
		7. 国際競争力が高い人材の確保・育成	Phase 2
人材	優秀かつ多彩な人材の確保・育成	8. ダイバーシティの推進	Phase 2
		9. 労働安全衛生・健康経営の推進	Phase 2
		10. 人権の尊重・適正な労働慣行の浸透	Phase 2
サプライチェーン	社会課題を解決し国際競争力のあるサプライチェーンの構築	1. 社会・環境側面に配慮したサステナブル調達	Phase 2
ガバナンス	強固なガバナンス体制の構築	1. 2. 公正かつ透明性・実効性の高いガバナンス体制の実現	Phase 2
		1. 3. 法令遵守・コンプライアンスの徹底	Phase 2
		1. 4. リスク管理体制の整備	Phase 2
		1. 5. 情報セキュリティ対策の推進	Phase 2
		1. 5. 情報セキュリティ対策の推進	Phase 2

* Phase1 (2021年4月～2026年3月)

Phase2 (2021年11月～2026年3月)

Phase3 (2022年4月～2026年3月)

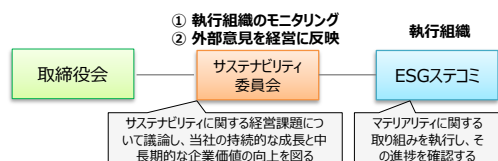
サステナビリティ委員会の設置に続き、指名委員会を取締役会の諮問機関として新たに設置

社内取締役	社外取締役	社外取締役比率	女性取締役比率	特長
4名 	6名 	60% (6名)	50% (5名)	<ul style="list-style-type: none"> 社外取締役比率2分の1以上を維持。 取締役会の多様性にも留意し女性取締役(社外)を昨年度比3名増員(計5名)。

時期	主な取り組みの内容	
2008年	6月	執行役員制度の導入。
2010年	6月	社外取締役を選任。
2012年	6月	女性社外取締役を初選任。
2014年	6月	社外取締役を増員(3名体制へ)。
2018年	6月	当社グループの取締役等に対する業績連動型株式報酬制度を導入。
2020年	6月	監査等委員会設置会社への移行。
2021年	2月	報酬委員会を設置。
	5月	ESGマテリアリティSteering Committeeを設置。
2022年	4月	SBTイニシアチブへのコミットメント表明、及び気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)提言への賛同を表明。
	8月	サステナビリティ委員会を設置。
	11月	指名委員会を設置。

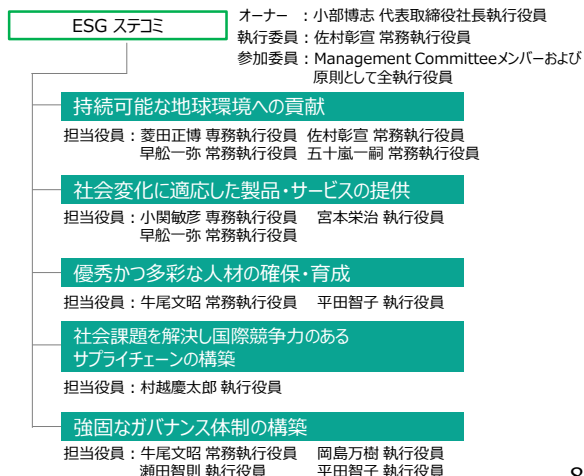
サステナビリティ委員会を取締役会内に設置し、ESG経営の執行をモニタリング

ESGマテリアリティSteering Committeeを管理・監督する会議体として取締役会の内部にサステナビリティ委員会を創設。本委員会の運営を通じて、より長期的かつ幅広い視野を確保し、「100年を超えて成長続けるグローバル企業」という当社の理想の姿からバックキャストで現状の課題を抽出し、取り組みを推進することで、当社経営のサステナビリティを高めていく。



- サステナビリティ委員会は、ESGマテリアリティSteering Committeeのモニタリングおよび多様なステークホルダーの意見を経営に反映させる役割を果たすため、取締役5名(内3名が社外取締役)の委員で構成。
- 各委員は、人材開発、法務・コンプライアンス、財務・会計、国際性・グローバル経験、環境・社会、ガバナンス・リスク管理といった経験・専門性を備える多様性に富んだメンバーで構成しているため、多岐に渡る観点からの議論が期待できる。

【ESGマテリアリティ Steering Committee (ESGステコミ) 体制図】



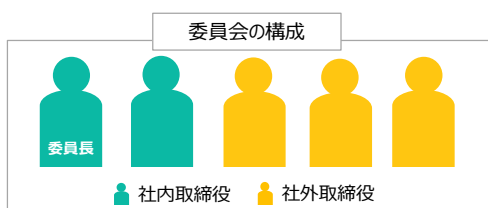
報酬委員会を設置し、客観性・透明性の向上に向け役員報酬体系を整備

■ 設置日

2021年2月6日

■ 目的

役員報酬に関して独立社外取締役の適切な関与・助言を得ることで、公正性・透明性・客観性を担保し、また、これをもって当社のコーポレート・ガバナンス体制のより一層の充実を図る



【報酬構成】

社外取締役（監査等委員である取締役を除く）

固定報酬のみ

取締役（社外取締役および監査等委員である取締役を除く）

固定報酬	変動報酬	業績連動型 株式報酬
3	1.5	1

指名委員会を設置し、副社長・社長選任プロセスの検討を進める

■ 設置日

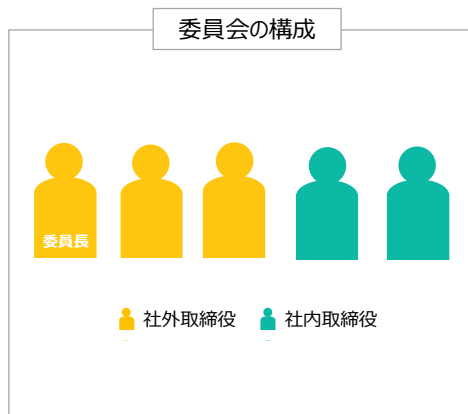
2022年11月5日

■ 目的

取締役および執行役員等の選任方針・選任基準・候補者案の決定等に関して、独立社外取締役の適切な関与・助言を得ることで、公正性・透明性・客観性を担保し、当社のコーポレート・ガバナンス体制のより一層の充実を図る

■ 役割

取締役および執行役員等の選任に係る基本方針や基準、候補者案の決定等について、取締役会の諮問に応じて審議を行い、その結果を取締役会に対して答申



2. カーボンニュートラルに向けた進捗

常務執行役員(CFO) 佐村 彰宣

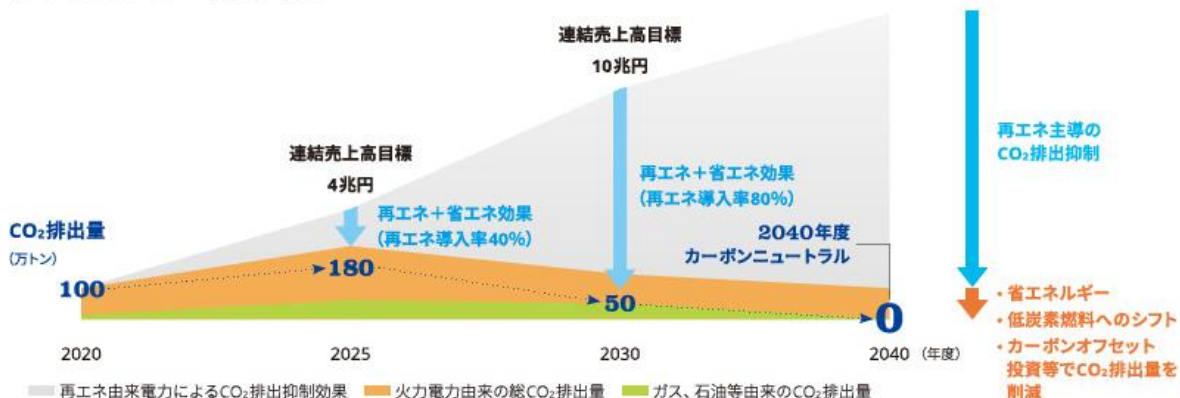
環境統括部長 石橋 健作

カーボンニュートラル宣言 -2021年7月公表 Vision2025の骨子の一つ-



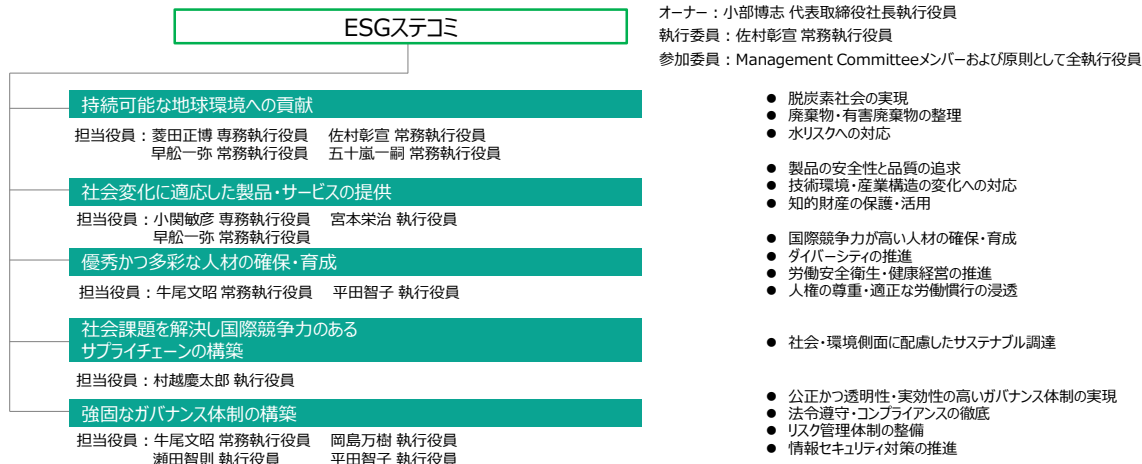
2040年度までに事業活動(Scope 1,2)をカーボンニュートラル化
サプライチェーン排出量(Scope 3)の削減計画を2025年度までに決定

再エネ電力導入に伴うCO₂排出量の変化



脱炭素社会の実現はESGマテリアリティのトップバッター、部門間連携で取り組みを推進

【ESGマテリアリティ Steering Committee (ESGステコミ) 体制図】



2022年度は今後の取り組み拡大に向けた社内プラットフォームの構築に注力

サブテーマ	KPI(2025年度)	2022年度 取り組みの進捗
製品を通じた脱炭素化への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・電動自動車用駆動モータシステム「E-Axle」導入によりCO2排出量を削減する： 2022年度～2025年度までの累計 11,700千t-CO2 ・電動パワーステアリング用モータ導入によりCO2排出量を削減する： 2022年度～2025年度までの累計 26,261千t-CO2 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、「E-Axle」および電動パワーステアリングモータによるCO2排出量をSteering Committeeで確認 ・2021年3月末に「E-Axle」実績を踏まえて、2026年満期ユーロ建無担保普通社債(グリーンボンド)を発行 ・車載製品を中心に他の製品での試算を開始 ・NEDOと連携し、次世代モータの研究開発開始
事業活動で排出するGHGsの削減	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年度までに連結ベースでの再エネ導入比率を40%にする。 ・TCFD提言に沿った気候変動シナリオの年次開示を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. CO2排出(エネルギー)量の全体像の見える化 <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度実績としてデータカバー率100%の目標を設置※ ※2021年度実績のカバー率=54% 2. 地域別の再生可能エネルギーの導入手法を整理 <ul style="list-style-type: none"> ・コーポレートPPA、拠点別の導入手段、リスク、機会等を整理 ・省エネ活動による総量削減も推進(40拠点余りの診断実施) 3. TCFD提言を活用した事業リスクと機会の検討着手 <ul style="list-style-type: none"> ・2022年4月にTCFD提言への賛同を表明 ・車載事業から定性的な気候変動に対するリスクと機会を抽出

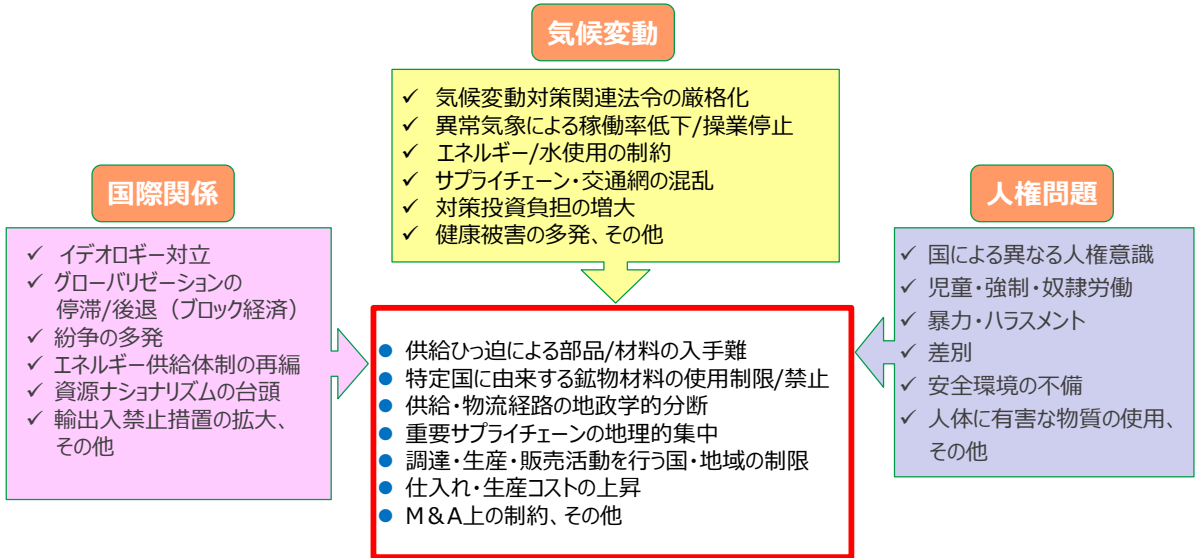
2022年度に構築した取り組み基盤を軸に製品および事業を通じて脱炭素化に貢献

サブテーマ	2023年度の取り組み概要
製品を通じた脱炭素化への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・ ライフサイクルアセスメントの考え方に基づく脱炭素貢献量の算定手法の開発 (Scope3の製品への割付[製品開発の軽薄短小の効果も含む]、削減量、削減貢献量) → まずは車載関連製品(2輪を含む)の拡充を図り、さらに車載以外の製品への展開 ・ ニデック版脱炭素貢献製品(仮)の定義検討と貢献量の算定
事業活動で排出するGHGsの削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業活動(Scope1, 2)の拠点カバー率100%把握と開示 ・ サプライチェーン排出量(Scope3)のカバー率60%以上の把握と開示 ・ 地域別の再生可能エネルギーの導入計画の策定

2023年度 : SBT(Science Based Targets)の認定を取得
CDPにて「B」ランクを取得 (2022年度:Cランク)

3. サステナビリティ視点から見たNidecの車載事業

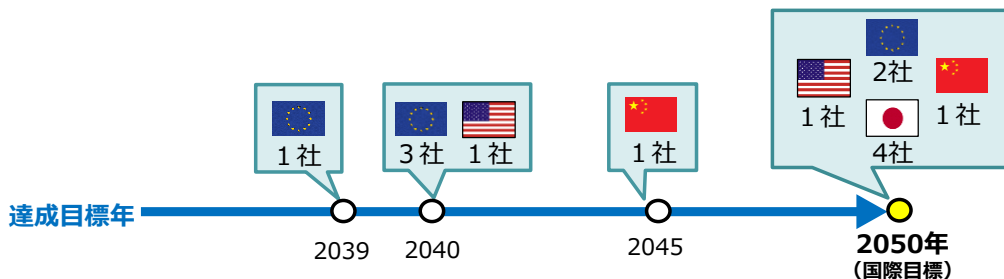
常務執行役員 早船 一弥



世界の主要自動車／車載部品メーカーは

- サプライチェーンを含むカーボンニュートラル化に軸足をシフト
- 部品に使用する原材料（鉱物材料）の削減・不使用を推進

主な自動車関連メーカーが目指すサプライチェーンを含むカーボンニュートラル化の達成時期



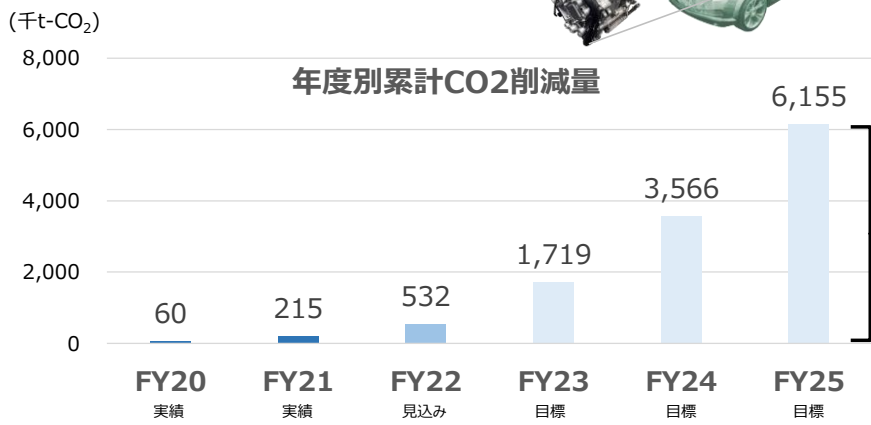
広範なリスクを事業機会に変えるカギは「製品設計」にあり



EV用トラクションモータシステム -走行車両からCO2を排除-

エンジン ⇒ モーターへの置換えを通じてCO2を出さないクルマ作りを強力にサポート

E-Axle (モーター+インバータ+減速機)



FY20-25累計CO2削減量見込み **12,000千t-CO₂超**
 <KPI: 11,700千t-CO₂>

日本の森林が1年間に吸収するCO2の約20%に相当 (環境省公開データに基づき概算)

鉱物使用量の削減は世界のCO2排出量低減（4-7%）にも寄与



自動車一台当たりの資源使用量 (kg)



出典：資源エネルギー庁（2021年）

鉱物材料使用量の削減および重希土類の完全不使用を計画

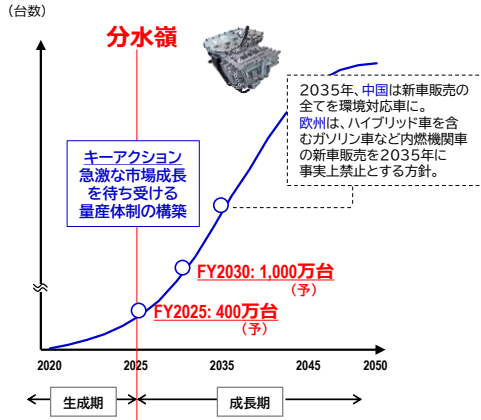
第二世代モデルでは使用鉱物材料の大幅低減を実現



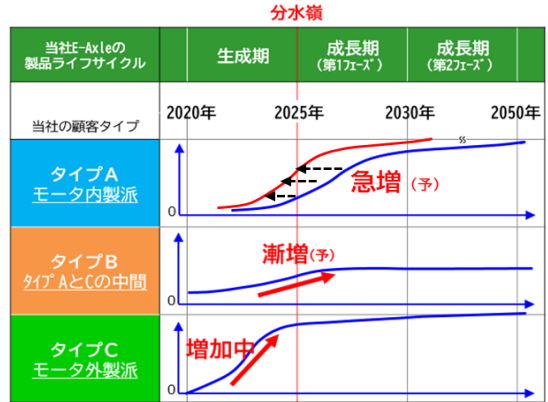
アルミ		▲25%
電磁鋼板		▲21%
銅		▲7%
レアアース		年内に重希土類の完全不使用へ

E-Axle市場は中長期的に拡大が続くとの見通しは不変

【当社E-Axleの製品ライフサイクル】



【各顧客層によるモータ外部調達への動向予測】



4. 質疑応答